

“ リスク商品 ” には慎重なものの、貯蓄には高い関心

～ お金の貯め方・使い方アンケート調査結果（概要）～

はじめに

ここ数年、低金利や収入の伸び悩み、社会保障への漠然とした不安などを背景に、雑誌やインターネットでもマネープランや資産の増やし方、金融商品の選び方などの情報をよく見かけるようになった。また、これまで当研究所が行ってきた消費予報調査やボーナス調査では、「貯蓄」はお金の使いみちとして常に上位にきている。

そこで、今回、熊本市内の女性を対象に、貯蓄の目的や金融商品の保有状況など、お金の貯め方や使い方などをアンケート調査した。

【調査結果の概要】

1. お金を貯めたり増やしたりすることへの興味・関心が「かなりある」が 28.5%、「ややある」が 54.7%で、合わせると 8 割強が興味・関心を持っている。また貯蓄の目的は「老後の生活資金」が 58.3%で最も多く、次いで「病気や不時の災害に備えるため」が 50.7%で、世帯のライフステージによる差が大きい。
2. リスク商品で資産を増やしたいと思うかどうかは、「かなりそう思う」はわずか 1.1%、「ややそう思う」9.6%で、合わせてもほぼ 1 割に過ぎず、慎重な様子であった。年代別では 30 代と 60 代が他の年代に比べるとやや積極的である。
3. 子ども手当の使いみちは、「子どもの将来のための貯蓄」がトップ。教育費など成長に応じて必要となる支出増に備えるものと思われる。以下、「生活費の補填」、「塾や習い事」、「学校や幼稚園・保育園の費用」と続いている。

【調査の概要】

対象：熊本市在住の 20 代から 60 代の女性モニター 500 人

有効回答数：446 人（有効回答率 89.2%）

調査時期：平成 22 年 10 月 20 日～11 月 3 日

調査方法：郵送法

回答者の属性

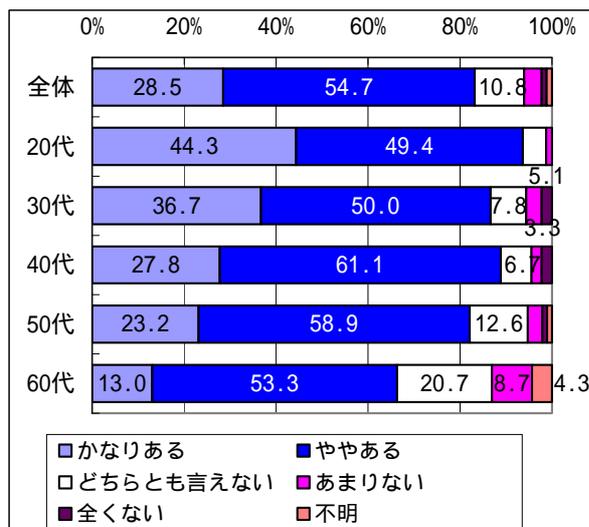
年代	人数	構成比
20代	79	17.7
30代	90	20.2
40代	90	20.2
50代	95	21.3
60代	92	20.6
合計	446	100.0

1. 貯蓄や家計への関心

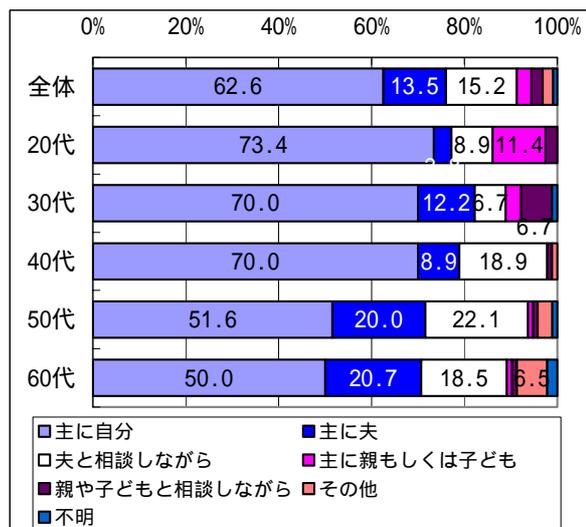
お金を貯めたり増やしたりすることへの興味・関心は、「かなりある」が 28.5%、「ややある」が 54.7%で、両者を合わせると 8 割強が興味・関心があると答えている。一方、「どちらとも言えない」は 10.8%にとどまり、「あまりない」(3.8%)と「全くない」(1.1%)はどちらもわずかだった(図表 1)。全体的に貯蓄への興味・関心は高いと言えるだろう。年代別にみると、「かなりある」は 20 代が 44.3%と最も多く、年代が若いほど貯蓄への興味・関心が強くなる傾向が表れている。

また、家庭の中で金融商品の新規契約や預け替え、解約など貯蓄の管理を担当しているのは、「主に自分」が 62.6%と最も多く、次いで「夫と相談しながら」が 15.2%、「主に夫」が 13.8%であった(図表 2)。女性(主婦)が家庭の財布の紐をしっかりと握っているのが分かる。年代別にみると、未婚者が多い 20 代で「主に自分」が高くなるのは当然としても、30 代、40 代も 7 割が「主に自分」と回答している。50 代、60 代では「主に自分」は約 5 割に下がり、「夫と相談しながら」、「主に夫」が 2 割前後を占めている。

図表 1 お金を貯めることや増やすことへの関心



図表 2 貯蓄の管理担当



2. 貯蓄の目的

貯蓄の目的をみると、「老後の生活資金」(58.3%)が最も多く、次いで「病気や不時の災害に備えるため」(50.7%)となり、この 2 つは 5 割を超えていた。以下、「旅行やレジャーの資金」(42.2%)、「車や耐久消費財の購入資金」(33.6%)、「趣味や楽しみの資金」(31.6%)、「子どもの教育資金」(31.2%)と続いている。

年代別にみると、「老後の生活資金」と「病気や不時の災害に備えるため」は 50 代と 60 代で高くなっており、「旅行やレジャーの資金」や「趣味や楽しみの資金」は 20 代が

高くなっている。さらに「子どもの教育資金」は 40 代が突出している。このように、貯蓄の目的はその家庭のライフステージによって差が大きい。

また、「特に目的はないが、していれば安心」は 20 代、30 代、60 代が 3 割を超えており、「貯めること自体」も全体では 11.0%と少ないものの 20 代は 26.6%、30 代は 15.6%で、40 代以上が 1 割未満であったのとは対照的であった。前頁の図表 1 と合わせると、最近よく言われるように若いうちから貯蓄に関心を持ち、実行している傾向が表れているようだ。

(注) 未婚者には自分自身の、既婚者には世帯での目的を尋ねている。

図表 3 お金を貯める目的(複数回答、%)

順位	全体	20代	30代	40代	50代	60代
1位	老後の生活 58.3	趣味や楽しみ 65.8	旅行やレジャー 40.0	子どもの教育 72.2	老後の生活 85.3	老後の生活 76.1
2位	病気や不時の災害の備え 50.7	旅行やレジャー 60.8	車や耐久消費財 40.0	老後の生活 62.2	病気や不時の災害の備え 63.2	病気や不時の災害の備え 75.0
3位	旅行やレジャー 42.2	病気や不時の災害の備え 40.5	老後の生活 37.8	病気や不時の災害の備え 45.6	旅行やレジャー 37.9	旅行やレジャー 44.6
4位	車や耐久消費財 33.6	特に目的はない、安心 36.7	子どもの教育 37.8	車や耐久消費財 43.3	車や耐久消費財 32.6	特に目的はない、安心 32.6
5位	趣味や楽しみ 31.6	自分や子どもの結婚 35.4	特に目的はない、安心 37.8	旅行やレジャー 30.0	住宅取得やリフォーム 28.4	冠婚葬祭や付き合い 25.0
6位	子どもの教育 31.2	車や耐久消費財 32.9	趣味や楽しみ 36.7	特に目的はない、安心 21.1	冠婚葬祭や付き合い 25.3	趣味や楽しみ 21.7
7位	特に目的はない、安心 28.7	冠婚葬祭や付き合い 32.9	病気や不時の災害の備え 26.7	趣味や楽しみ 20.0	子どもの教育 21.1	車や耐久消費財 19.6
8位	冠婚葬祭や付き合い 23.3	貯めること自体 26.6	住宅取得やリフォーム 17.8	住宅取得やリフォーム 20.0	趣味や楽しみ 18.9	住宅取得やリフォーム 15.2
9位	住宅取得やリフォーム 19.1	老後の生活 24.1	住宅ローンの返済 16.7	冠婚葬祭や付き合い 18.9	住宅ローンの返済 17.9	自分や子どもの結婚 6.5
10位	自分や子どもの結婚 17.3	子どもの教育 19.0	冠婚葬祭や付き合い 15.6	住宅ローンの返済 18.9	特に目的はない、安心 16.8	子どもの教育 5.4
11位	住宅ローンの返済 12.3	住宅取得やリフォーム 12.7	自分や子どもの結婚 14.4	自分や子どもの結婚 15.6	貯めること自体 2.1	住宅ローンの返済 4.3
12位	貯めること自体 11.0	独立や起業 8.9	独立や起業 7.8	貯めること自体 8.9	独立や起業 0.0	貯めること自体 4.3
13位	独立や起業 3.6	住宅ローンの返済 2.5	その他 5.6	独立や起業 2.2	その他 1.1	独立や起業 0.0
14位	その他 2.2	その他 3.8		その他 0.0		その他 1.1

(注) 網掛けは全体を10ポイント以上、上回っている項目

3 . 金融商品との付き合い

低金利が続く中、元本割れを起こす可能性はあっても収益が見込まれるリスク商品への関心は以前より高まっているものと思われる。

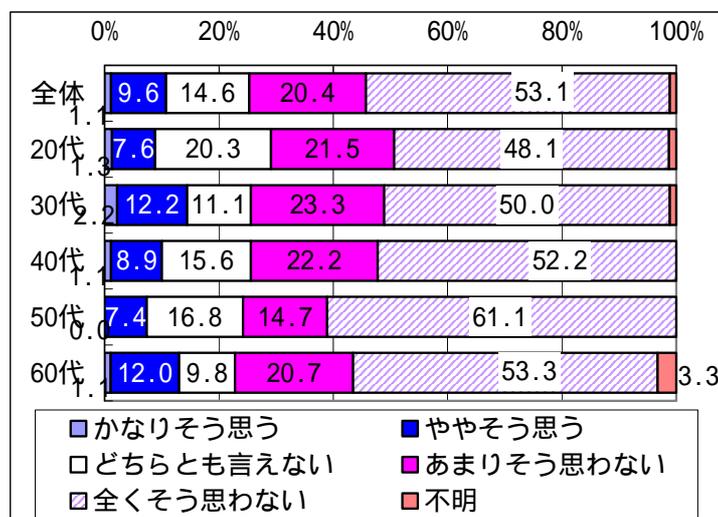
そこで、リスク商品で資産を増やしたいかと尋ねたところ、「かなりそう思う」はわずか 1.1%で、「ややそう思う」が 9.6%、合わせてもほぼ 1 割であった。対して「全くそう思わない」は 53.1%と半数を超え、「あまりそう思わない」(20.4%)と合わせると 7 割強となり、リスク商品で資産を増やそうという意識は低く、思いのほか慎重な様子が浮かび上がった。その中で、30 代と 60 代が「ややそう思う」がそれぞれ 12.2%と 12.0%と 1 割を超えており、比較的関心が高いものと思われる(図表 4)。

次に金融商品の保有率と関心度をみると、保有率が最も高かったのは「(定期・定額などの)預貯金」(67.9%)で 7 割近かった。低金利とはいえ元本保証であり、最も身近な金融商品と言えるだろう。次いで「保険(個人年金保険、学資保険を除く)」(54.0%)、「個人年金保険」(27.8%)、「学資保険」(23.8%)と保険タイプの金融商品が続いている。また、元本が保証されないリスク商品である「投資信託」(17.3%)、「株式」(16.8%)、「外貨建て商品」(15.9%)、国債等の「公共債」(12.6%)は 2 割に達しなかったものの、浸透し始めていると思われる(図表 5)。

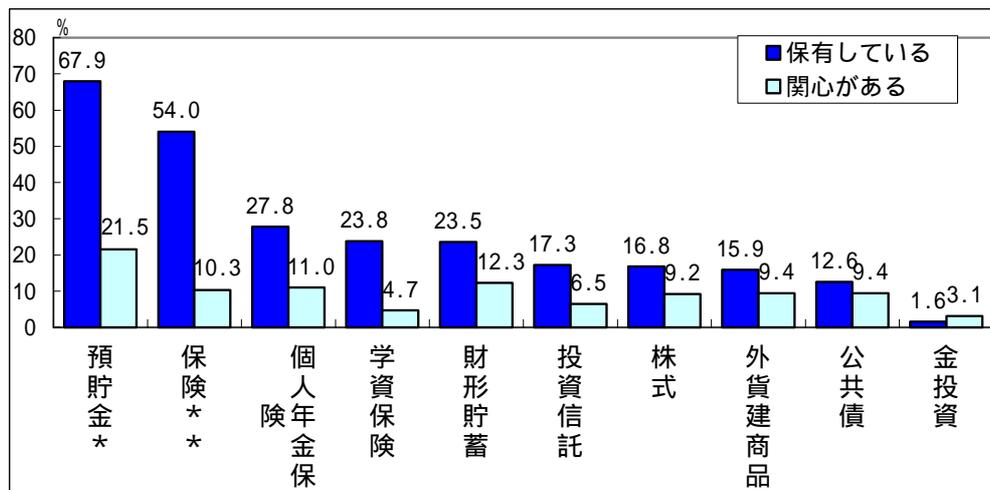
また、興味・関心がある金融商品をみると「預貯金」が 21.5%で最も多かったが、そのほかの商品はおおむね 1 割前後にとどまっている。「株式」、「外貨建て商品」、「公共債」については保有が少ない割には関心が高いと言えそうだ。

図表 4 でみた、リスク商品で資産を増やしたいと思っているのは約 1 割に過ぎなかったのに対して、実際の保有は 1 割を超えており、「どちらとも言えない」、「あまりそうは思わない」、「全くそうは思わない」と回答した家庭でも、こうした商品を保有し、関心があるのが分かる。

図表 4 リスク商品で資産を増やしたい



図表 5 金融商品の保有と関心（複数回答）



* 「預貯金」は定期・定額などの預貯金
** 「保険」には個人年金保険、学資保険は含まない

4. 子ども手当

今回、中学生以下の子どもがいる世帯に 6 月支給分の使いみちと 10 月支給分の使いみち予定を尋ねたところ 121 人から回答を得た。最も回答が多かったのは「子どもの将来のための貯蓄」で、特に 10 月分の予定では 48.8%と 6 月分より多かった。教育費など子どもの成長に応じて必要になる支出増に備えるものと思われ、子育ての心理的安心感につながると思われる。2 番目に多かったのは「生活費の補填」(6 月、10 月ともに 23.1%) で、家計支援の効果もあったものと思われる。以下、「塾や習い事」、「学校や幼稚園、保育園の費用」と教育費関連の支出が続いている。

図表 6 子ども手当の使いみち（複数回答）

